

# 副主任コラム 11月号

副主任 澤井 良子

11月に入り、暑い日から急激に寒くなったりと季節の移り変わりの早さを感じます。

ある日の給食前、2階の0、1歳児のお部屋での事です。りす組のAさんとBちゃんが配られたエプロンをつけようとしていました。Bちゃんは隣の席のAさんのをつけてあげていました。Bちゃんもつけて欲しいのかAさんの前に自分のエプロンを差し出しますが、なかなか気付いてもらえず、「エプロンしてよ」と口に出して言います。けれどAさんの気分がのらないのを感じたBちゃんは遠くにいた保育士に『先生がして』と言いにきました。

Bちゃんのエプロンをつけて欲しい気持ちは、やりとりを見ていたら分かり、すぐに行って大人がやってあげることは簡単です。ですが、どの年齢・場面でも必ず子ども同士の関わりがあり、そこからどこで子ども達が周りにいる保育士を子どもが求めてくるのかな？と少し離れた場所から見守り、求められた時に手を差し伸べてあげられるところに大人がいることが、子ども達の安心でもあり、子ども関係の育ちでもあるのではないかな…と思います。

環境として、0、1歳児が同じ空間になっているのは、子ども同士の関わりが環境の一部であり、発達においても異年齢となって生活しているからです。そして2歳児になると、一旦できることや、発達を見直す、苦手なこともしっかりみてあげたりすることや、1番仲間意識が芽生える年齢なので集団をしっかり作り、3、4、5歳児の異年齢クラスへと繋がっていくようにとうさぎ組は独立した空間となっています。

そして、りす組・うさぎ組でも活動選択を取り入れ、自分がしたいことを選んで活動していますが、以上児クラスでも、活動選択はもっと大きな集団の中で取り入れられています。今月では、運動会ごっこでした。年長児を中心とし、したい種目を自らが選び参加しました。年長児は、玉入れや、かけこなどのアナウンスを入れてくれました。自分の言葉で実況する姿には、新たなその子の一面を知ることができ、任された事で自信もついたことと思います。2日目には、年中の男の子2人が「玉入れのやつ言いたい」と言い、年長の子が「玉の色と、どっちが多いか見て、少ない方にガンバレって言って、多い方に頑張ってますって言うんだよ」と教えているのを聞いて、自分のしたことを教えてあげる姿、子ども同士でのやりとりに育ちを感じました。

自分で選択し、やりたいことをやるのは、集中もします。自分の決めたことだからやり遂げようとする力もつきますが、やりたいことだけやっていたら、学校に行って一斉にすることもするのに大丈夫なのかな？という疑問もでます。私自身も感じていました。でも、今この乳幼児期につけた自分で選択する力、やりたいことに没頭するという力、くじけない力や人間関係は、小、中学校を過ぎて大人で社会に出た時にいきってくるのではないかと思います。選択制を取り入れながらも、ひとりひとりの【個】を大切に、成長をしっかりみて関わっていくこと、年齢でみるのではなく発達でみていくことが日々私たちの保育をしていくうえでも大切だと思っています。